

10月 全校朝会

10月になりました。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。先月23日の秋分の日前後を秋の彼岸と言いますが、その通りで、朝晩ずいぶん過ごしやすくなりました。先週行われた新人戦、各会場を少しずつですが、見て回りました。どの部も力いっぱいプレーしている様子を見ることができました。

さて、今日は、「間違えることは悪くない」という話をします。

図書室の入口から奥の方に入っていくと、勉強の仕方についてのコーナーがあります。そこに、「東大教授が教える勉強脳の作り方」という本がありました。東京大学で脳科学を専門にされている池谷裕二先生という方が書いた本で、目次を見ると、「なぜ、どうして？すぐに忘れてしまう理由」とか、「知って納得！脳の仕組みにあった勉強法」ということが書いてあります。なるほど、と思うことがたくさんあり、イラストも多く載っていて読み始めると、一気に読み終わりました。

紹介したいことはたくさんあるのですが、この中から「間違えることは悪くない」ということについてお話しします。誰でもそうだと思いますが、問題を解くときに、「間違えたくない、間違えてはいけない」と思ってやりますね。多くの人は、間違えることは悪いことと思っていると思いますし、わざと「間違えてやるぜ」と思って何かをやる人はいないと思います。もちろんわざとそんなことをする必要はありません。しかし、人は間違えます。そんな完璧に何でもできる人なんかいません。この本によると、間違えてしまったという経験が大事なんだそうです。間違えた経験が次に思い出すヒントにつながる、間違えたことが脳に記憶されると説明されています。私も、大事な試験で間違えてしまったことは、今でもよく覚えていますので、間違えたことが脳に記憶されるというのはその通りなんだという実感があります。

池谷先生が問題を解くときの注意点をあげていますので、引用します。

問題を解くときには、ぜひ、次のことに注意してください。それは、答えが全く分からなくても、自分なりに考えて答えを出してみる、ということです。何も考えず、すぐに答え合わせをしてしまうと、間違える機会を逃すことになります。でも、自分なりに考えて答えを出し、間違える経験をすれば、それは記憶の強化につながります。(引用はここまで)

問題集やワークに取り組むときに、分からないとすぐに答えを見ちゃう人はいませんか。じっくり考えてから、最後に答えを見ることが大切なようです。

「間違えることは悪くない」というお話をされていて、思い浮かんだフレーズがあるので、2つ紹介します。

1つは、ことわざです。「失敗は成功のもと」聞いたことありませんか。失敗することによってやり方を改めることができ、かえって成功へとつながることになるから、一度や二度の失敗にくじけることはない、という教えです。

もう1つは、いつも紹介している「論語」からです。「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」これは、過ちを犯してしまっ、それをそのままにして改めないことは、本当の過ちだ、という意味です。

2つの言葉に共通するのは、「間違えたあと」の行動です。間違えることは誰にでもあります。失敗をしない人などいないのです。そのあと、どうして間違えたのか、どうして失敗したのか、どうすれば上手くいくのか、ということを実際に考え、行動することが大事だと思うのです。テストもそうですし、部活動の試合も同じです。失敗したことや負けてしまったことは決して無駄ではありません。次に成功するための間違いや負けなのです。

もう一つ、発明王エジソンの言葉を紹介します。

「私は失敗したことがない、ただ、一万通りの上手くいかない方法を見つけただけだ」

私たちの生活に欠かせない電球や蓄音機（録音する機械）映写機（映像を移る機械）などを発明したエジソンはたくさんの失敗をしたはずですが、それを失敗と言わず、上手くいかない方法を見つけた、という姿勢がその後の多くの発明につながったのだと思います。

おわりに、これから、季節は秋から冬に向かっていきます。朝晩冷え込むようになります。引き続き、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症には十分注意して生活をしていきましょう。

校長 大澤 聡